

令和6年度 大阪薫英女学院中学校高等学校 学校評価

1 めざす学校像

「敬・信・愛」を建学の精神とする本校は、「人との関わりの中で、自分らしく輝く女性を育てる」ことを目標に掲げ、世界で活躍するとともに生涯にわたって幸せに充実した人生を送ることのできる人間の育成をめざしています。

自らの人生を切り拓き、いかなる苦難にも負けることなく「たくましく生きていく」ためには、「豊かな人間性」とともに「豊かな学力」が不可欠であることから、これら二つを一体のものとして捉え、よき集団の中で「豊かな人間性（人と関わる力）」を育むとともに、互いに励まし合い競い合って「学力の向上」を図ります。

薫英教育で、生徒一人ひとりの価値ある未来を創造します。

1

行事をはじめとする学校生活を通して友情を育み自立心を養う

2

校内外の教育活動を通して自らの将来を見据える力を養う

3

自分の目標や夢の実現に向けた学力を育成する

2 中期的目標

1

行事をはじめとする学校生活を通して友情を育み自立心を養う

(1)

ともに競い合い、励ましあって向上する集団の育成に努めます。

学校行事に真剣に取り組むことで、みんなでやり遂げた達成感を味わうとともに、互いの存在に気づき尊重する豊かな心を育みます。また、行事への取組みを通してクラスへの帰属意識を養い、相互に良い刺激を与え合う集団づくりをめざします。

生徒向け学校評価アンケートの「学校行事全般に関する項目」について、令和9（2027）年度までに肯定的回答90%以上をめざします。

(2)

規範意識と豊かな心を育む

基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努めます。また、生徒会活動・クラブ活動の活性化を図り豊かな心を育みます。

基本的生活習慣の象徴として、令和9（2027）年度までに早朝指導を前年比10%減にすることをめざします。

生徒向け学校評価アンケートの「人権を大切にすることや、社会のルールを守る態度を育てている。」令和9（2027）年度までに肯定的回答75%以上をめざします。

生徒向け学校評価アンケートの「生徒会活動に関する項目」を令和9（2027）年度までに肯定的回答70%以上をめざします。

生徒向け学校評価アンケートの「クラブ活動の活性化に関する項目」を令和9（2027）年度までに肯定的回答70%以上をめざします。

(3)

安心・安全な学校づくり

いじめを許さないことはもとより、互いを認め合える集団作りを推進します。また、そのための方策の一環として、保護者との連携の強化に努めます。

生徒・保護者向け学校評価アンケートの「人権に配慮した指導」に関する項目に対する肯定的回答のさらなる向上に努めます。

生徒・保護者向け学校評価アンケートの「家庭連絡や意思疎通、信頼感」の項目に対する肯定的回答を令和9（2027）年度までに80%以上をめざします。

2

校内外の教育活動を通して自らの将来を見据える力を養う

(1)

留学の充実

姉妹校との連携を深め、安心安全な留学を基本とする「長期留学」のさらなる充実に努める。現地アドバイザーとの連絡を密に生徒の状況把握に努め、留学の円滑な実施に向けて努力します。重大事故ゼロはもとより、姉妹校との連携を引き続き促進し、プログラムのさらなる質的向上を図ります。

長期留学中の重大事故0を堅持します。

留学説明会や保護者交流会を定期的実施し、安心感のある留学生活に勤めます。

(2)

海外研修の充実

単なる観光ではなく体験を重視したプログラムを実施し、現地において異文化理解や国際交流が深められるよう努めます。また、これまで実施してきたニュージーランド5週間の短期留学やイギリス・カナダ等への2週間語学研修、海外修学旅行のさらなる充実を図ります。

参加生徒へのアンケートでの満足度90%以上を維持します。

(3)

「実用英語技能検定(英検)」の取組み

全校を挙げて英検に取り組み、中学卒業時で準2級以上、高校卒業時で普通科は2級以上、国際科は準1級以上の取得を目標とします。

それぞれの取得率を、令和9（2027）年度までに準2級70%、2級40%、準1級45%以上をめざします。

3

自分の目標や夢の実現に向けた学力を育成する

(1)

授業の充実

公開授業、研究授業を定期的実施し、「分かる授業、興味を持てる授業」に努めるとともに、さらなる授業改善に取り組みます。

生徒向け学校評価アンケートの「授業に関する項目」について、令和9（2027）年度までに肯定的回答70%以上をめざします。

(2)

学習意欲の喚起

「一人で勉強しない」を合い言葉に、友人とともに学習に取り組むことで、学力のさらなる向上を図ります。

生徒向け学校評価アンケートの「学習活動を通じた学力向上に関する項目」について、令和9（2027）年度までに肯定的回答70%以上をめざします。

(3)

夢を実現する進路指導

生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるように努めます。

進路相談・進路ガイダンスの実施により生徒の進路実現を支援します。

生徒向け学校評価アンケートの「各種講習や自習室が進路実現につながる」の肯定的回答を、令和9（2027）年度までに80%以上をめざします。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析
【総括】 （生徒アンケートより） トイレや教室を含む学校の施設・設備については満足度が低いものの「学習に対する（通知表に示される）評価は、適切で納得できる」「文化祭をはじめとする学校行事は充実している」「教職員は、授業や学校行事をはじめとした教育活動に熱心に取り組んでいる」という、昨年肯定評価が８割を超えた項目に加えて、今年度は、「様々な講習や補習、および放課後自習室は、自分の学力向上や進路実現に役立っている」「教職員は、希望進路の実現に向けて親身になってくれる」「生徒会活動は活発で充実している」「教職員は、人権を尊重した指導を行っており、体罰やセクハラはない」「心身の健康について気軽に相談できる環境（保健室や教育相談）が整っている」の５項目についても肯定回答が８０％を超え、生徒にとって学校生活、進路指導、主体的学習取組みなどへの満足度、それに対する教員の指導やかかわりに対する納得度が高いことが読み取れる。 （保護者アンケートより） 肯定回答８割を超えた項目は２５項目中１５項目あり、中でも「子どもを入学させてよかった」については９０.１％という高評価であった。 また、高校については「BLEND などを通じて家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っており、信頼感がある。」についても肯定回答は昨年に引き続き８割を超え、学校に信頼を寄せていただいていることが推察できた。 アンケートの回答率は、残念ながら６３.３％と低かったがアンケートの既読数は９割を超えており、回答しないことも一つの意見表明である可能性は否定できない。 加えて、行事を除く生徒の学校生活、ＰＴＡ 活動についての質問項目には「わからない」という回答が一定数見られたことから、教育活動の発信の方法について更なる工夫が必要である。 （教職員アンケートより） 肯定回答が増加したものは２５項目中１９項目であった。８割を超えず、且つ昨年度よりも肯定回答の割合が下がったものは以下の「入試改革等を踏まえて授業を主体的・対話的で深い学びの実現等、更なる向上を目指している」「生徒指導方針は適切で、全ての教職員に共有されている」「生徒が安全で効果的な学校生活を送れるよう、行事の見直し等に取り組んでいる」「各分掌や学年・教科が連携し、組織として機能の向上に取り組んでいる」「授業力の育成や校務遂行等、教育活動に関する学習機会が適切に提供されている」の５項目であった。 「学校運営」「組織力」「次世代リーダーの育成」などに課題意識を持ちながらも、生徒・保護者の高い満足度があるのは、日ごろの教職員の努力によるものと考える。日々頑張る教職員が疲弊しないよう、組織としてのチームワークの強化、若手教員が問題意識や悩みを気軽に相談し合えるような時間と余裕を確保するように努めていく。 【授業、学力等】 ・生徒が感じる授業の分かりやすさや保護者が感じる子供の授業満足度は、今年度もおおむね満足と思われる７割を超えた。 ・「講習や補習、放課後自習室」については、肯定回答が生徒・保護者共に昨年度から増加し８割を超えた。 ・今年度も「学習評価が適切で納得できる」の肯定回答が生徒、保護者ともに８割を超えており、教員が行う評価の妥当性、信頼性について十分満足されていると判断できた。 【進路指導等】 ・「教職員は、希望進路の実現に向けて親身になってくれる。」は、肯定回答が８割を越え、大学進学ゼミ・Ｊトレーニング・長期休業中の講習といった学習支援は、生徒一人ひとりの進路実現にベストな環境となっている。保護者も放課後自習室など、学校の中で進路実現できる環境には高評価である。 ・「年内入試」の人気の高まる中、成績上位層には積極的に一般入試で国公立や難関私立大学をめざす「戦う受験生」となってほしい。 【生徒指導等】 ・特別支援・人権委員会やハイパーＱＵなどを活用し、生徒の抱える学校生活の問題について早期発見・早期対応ができるように努めている。 ・普段から生徒の様子をよく観察し、積極的に教員からの声かけをしていくためにも、今まで以上に業務を精選し、ゆとりをもって日々生徒と向き合う時間を確保する。 【その他、学校運営等】 ・施設・設備については、経年から高い評価ではなかった。生徒の安全確保を最優先に定期的な点検などにより満足される学習環境の整備に努める。
学校関係者からのご意見
Ｊトレ、英検等教職員が努力していて成果が出ていることは誇りに思っている。クラブ活動も頑張っているので、極力応援にも行きたい。 校内の美化、花を植える、がれきを撤去するなどお金をかけないでできることをしてほしい。廊下に使っていない棚などを置いているのも気になる。自分たちでできる小さなこと（枯れている花を撤去するなど）からしてほしい。教育内容には非常に満足している。 施設設備については、築年数がたっているので、老朽化が進んでいる。努力が必要と感じる。 クラブの発信を文化部等、強豪クラブ以外もしてほしい。 薫英留学においては、さらに現地（特にアドバイザー）と連携を密にしていってほしい。 参観・懇談など、保護者が学校に来れる機会を増やしてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組み計画内容	評価指標	自己評価
1 行事をはじめとする学校生活を通して友情を育み自立心を養う	(1)ともに競い合い励ましあって向上する集団の育成に努める。 (2)規範意識と豊かな心を育む	ア. 学校行事に真剣に取り組み、互いの存在に気づき尊重する「豊かな心」を育む。また、行事準備期間を重視しさまざまな葛藤を経てクラスへの帰属意識を養い、ともに支えあう集団を育成する。 ア. 基本的生活習慣の確立のため、遅刻者を減少させる。 イ. 規範意識の醸成 ウ. 生徒会活動の活性化を図り、生徒の主体的な活動を支援する。 エ. クラブ活動の活性化 ア. いじめを許さないことはもとより、互いを認め合える集団作りを推進します。本校「いじめ防止基本方針」に基づきいじめ事象の未然防止に努める。 イ. 保護者への情報発信に努め、連携強化に努める。	ア. 生徒対象学校評価アンケートにおいて、行事に対する肯定的回答90%以上 (R9) ア. 早朝指導を前年比10%減 イ. 学校評価アンケートで75%以上 (R8) ウ. 学校評価アンケートでの肯定的回答70%以上 (R8) エ. 学校評価アンケートでの肯定的回答70%以上。 (R8) ア. 学校評価アンケートで「人権に配慮した指導」の肯定的回答のさらなる向上をめざす。 イ. 保護者アンケート結果で「家庭との連絡や意思疎通、信頼感」の肯定的回答80%を目標とする。 (R8)	ア. 「行事の充実」について肯定的な回答77.9%「行事やHR等で、将来の生き方や進路を考える機会が多い」78.8% (△)。引き続き振り返りなどを活用し、豊かな心を育みます。 ア. 今年度から指標を設定したので、今年度記録のみ表示 中学： 0 高1：30件 高2： 8件 高3：66件 イ. 「社会のルールを守る態度を育てようとしている」について肯定的な回答は中学保護者77.8%高校保護者80.7%生徒75.6%であった。(○)月例の風紀検査や必要な生徒への追指導、日々の生活指導を粘り強く行い規範意識の醸成に努める。 ウ. 「生徒会活動は活発で充実しており、活動時間や活動内容は適切」に対する肯定的回答が中学保護者93.3%高校保護者84.6%生徒81.7%であった。(◎) わからないと回答が多かったので、すべての生徒が主体的にかかわれる生徒会活動としていく必要がある。 エ. 「クラブ活動は活発で充実しており、活動時間や活動内容は適切」の肯定的回答が中学保護者70.0%高校保護者66.3%生徒74.8%であった。(△) 生徒会活動と同様に、すべての生徒にとって快適なクラブ活動としていく必要がある。 ア. 「人権を尊重した指導」に対する肯定的回答は、中学保護者92.7%高校保護者89.0%生徒83.1%であった。 機会をとらえて実施するQ-Uなども活用し、いじめ事象をはじめとする人権侵害の未然防止に努める。 イ. 保護者アンケートは肯定的回答中学保護者89.4%高校保護者85.9%であった。(◎) BLENDを活用するようになり、緊急連絡という限られた情報にとどまらず、欠席連絡や学級通信の配信などが行えるようになった。(◎)

	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画内容	評価指標	自己評価
2 校内外の教育活動を通して自らの将来を見据える力を養う	(1) 留学の充実 (2) 海外研修の充実 (3) 実用英語技能検定(英検)の取り組み	ア. 全ての海外における学習が安全に行えるよう体制の整備、生徒の支援に取り組む。現地との連絡を密にして生徒を支援する。留学中も保護者交流会を定期的実施し、保護者の安心に繋げる。 イ. 1年間の留学を意義あるものにするために、親元を離れ海外で生活する決意を固め、具体的目標を持って留学に望むよう、留学説明会を開催する。 ア. 各種海外研修・修学旅行について、事前の準備から計画的に行い、内容の一層の充実に努める。 ア. 「英検取り組み週間」を設定し、クラスの仲間とともに、より上級にチャレンジする。	ア. 生徒の安全にかかる重大事故0に努める。 イ. 安心安全な留学となるよう留学説明会や保護者交流会を開催する。 ア. 海外修学旅行後の生徒アンケートにおいて満足度90%以上 ア. 中学卒業時に英検準2級以上70%、高校卒業時に2級以上40%の取得。国際科卒業生準1級取得率45%以上	ア. 復活したニュージーランドの長期留学も現地アドバイザーとの連携により安全に帰国させることが出来た。(○) 短期留学についてもアドバイザーのいるニュージーランドで実施できた。 イ. 留学説明会は5・8・11月と計3回実施できた。(○) ア. コロナ禍で実施できていなかった海外修学旅行を再開できた。実施後のアンケートによる生徒満足度は99.0%であった。(◎) ア. 英検について、中学卒業時の英検準2級以上取得は81.3%、高校卒業時の2級以上取得は58.4%また国際科卒業生準1級取得率29.0%と国際科の成果指標は達成できなかった。(△) しかし、1級取得者は23年連続して輩出。国が目標とする卒業時準2級以上取得者50%を大きく上回る77.0%であった。
3 自分の目標や夢の実現に向けた学力を育成する	(1) 授業の充実 (2) 学習意欲の喚起 (3) 夢を実現する進路指導	ア. 公開授業および各教科による研究授業・公開授業を実施し、授業力の向上を図る。 ア. 「一人で勉強しない」を合い言葉に友人とともに学習に取り組み学力の向上を図る。 ア. 主体的に進路目標を定め、真に望む進路が実現できるよう支援に努める。 イ. 大学進学ゼミ・Jトレーニング・理数指導室。また、放課後学習システムとしてのメンター自習室を活用して学力向上を図り、希望進路を実現させるための支援を行う。	ア. 生徒向け学校評価アンケートの「授業に関する項目」肯定的回答70%以上 ア. 生徒向け学校評価アンケートの「授業に関する項目」肯定的回答70%以上 ア. 進路相談・進路ガイダンスを実施する。 イ. 生徒アンケート「各種講習や自習室が進路実現につながる」の肯定的回答80%以上。(R9)	ア. 「生徒一人ひとりを大切に丁寧でわかりやすい授業」に対する肯定的回答は生徒70.8%であった。(○) 個別評価の分かる授業アンケートの実施も必要。 ア. 「様々な講習や補習、および放課後自習室は、自分の学力向上や進路実現に役立っている」に対する肯定的回答は生徒82.6であった。(○) ア. 進路ガイダンスを高1で2回、高2で4回実施した。高3においては、保護者対象を2回、生徒対象を5回実施した。生徒の進路実現の支援に努めた。(◎) イ. 講習、補習、放課後自習室は学力向上や進路実現に役立っているの肯定回答は、生徒82.6%であった。(◎) 大学進学ゼミ、Jトレーニング、学習メンター運営の自習室など校内で進路実現を可能にする環境は保護者にとっても高評価であった。